

平成 23 年度

事業所名 : グループホーム ふじのかわ

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200152		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム ふじのかわ		
所在地	〒027-0029岩手県宮古市藤の川 11-5		
自己評価作成日	平成 23年 7月 1日	評価結果市町村受理日	平成 23年 10月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390200152&SCD=320>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成 23年 7月 21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームふじのかわは、宮古市中心部から少し離れた高台に開けた団地の中にある2階建て民家を改修したホームです。和洋室両方の居室があり、広さも6畳・8畳・10畳があり「自分の家」という雰囲気与生活していただけます。宮古湾が見え、天気の良い日の2階からの眺めはとてきれいです。玄関の段差や階段にはスロープを設置し、階段には踊り場・手すりを設け声掛けや見守り介助にて対応しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、高台に開けた団地の中にある大きな二階建ての民家を改造したもので、居室は和洋両方のあるつくりで、二階の居室からは海景色が眺望出来るなど環境に恵まれ、生活している利用者のいきいきとした表情と相まってアットホームな雰囲気を漂わせている。理念は職員全員でつくりあげた独自理念とし、「私たちの理念」としてその共有化が図られている。ホームの地域の理解と交流を図るため協力隊を活用しながら働きかけを行っているが、こうした個々の繋がりを深める中でさらに一層の交流が深まるよう努力している。今回の震災では、地域の方々の支援、協力と職員のがんばりで乗り越えつつあるが、これを契機に、防災の面でホームが地域に対し協力・貢献出来ること(担役割)などを検討し活かしていくことに期待できる。また職員一人ひとりの気持ちも大事にしており、そこから生じる結束力が今回の震災対応でもあらわれている。各職員には今なお辛い心情もあるなかで、利用者支援に誠実に当たっていることに敬意を表したい。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム ふじのかわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で考えたホーム理念に基き、その人らしさやご本人の出来る力を活かせるように毎月のカンファレンス時や申し送り時に共有し実践出来るよう努めている。	「その人らしさを大切に、ご本人のできる力を活かしながら、地域社会の一員として自信を持ち、安心して生活できるよう支援します。」と独自の理念を掲げている。理念は、「自由でいたい」「あまりかまわないでほしい」といった利用者の立場にたった意見を全職員から出してつくりあげられている。	BS法を用いての理念検討は利用者の観点からの率直な気持ちを全職員から引き出しており、利用者視点の意義と職員間の共有性が極めて高い。事業所の状況変化や利用者のニーズ等の変化に伴い作り変えていくことも必要と思われるので今後の取り組みにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区総会や地区清掃への参加を行なっている。また、避難訓練の際にはご近所の方の参加やおすそ分けを頂いたりと日常的に交流している。	地区自治会に加入し、地域の一員として地区総会や地区清掃活動にも積極的に参加している。また、近隣ともホームの応援協力隊等を通しておすそわけを頂くなど日常的な交流も深まりつつある。	地域へのホームの理解を深めるため地区総会でホームの概要を説明する機会を得ている。地域全体からの理解を得ていくのは時間がかかると思われるが、今後ともあせらずに地域の中に入って行く努力を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区総会や避難訓練などの場を通して認知症についての理解や支援、介助の方法などを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動状況や取り組みたい事などを共有できるよう話し合い、意見をいただく事もある。内容については会議録の回覧や申し送り等で職員に伝えられている。	市役所職員、地域代表、家族代表の固定メンバーで構成されている。会議では、行事やホームとして取り組んでみたい事、家族と共有できる事等を協議題としている。また、活発な意見交換があり、双方向的な会議となっている。	現在の固定メンバーに加え今後宮古商業高校ボランティアサークルの先生の参加が予定されており、地域との関係を深めようとする姿勢が感じられる。警察署員や消防署員の参加を検討していくことも一考である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡をとったり書類を届けに伺ったりと顔を合わせる関係作りを心掛けている。また、ホーム広報で情報を発信したり運営推進会議等で情報提供していただく事もあった。	運営推進会議において市役所職員からの確かな意見を頂いたり、直接、書類を届ける等顔を合わせる関係作りを努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での勉強会や繰り返し行なっている勉強会を通じて正しく理解出来るように努めている。玄関は夜間の戸締り以外は行っていない。	法人内の研修会等により身体拘束の種別のうち、特にスピーチロック(言葉による制限)の廃止についての研鑽を深めている。将来、法人内のグループホーム4か所共同でマニュアル化したいとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での勉強会や繰り返し行なっている勉強会を通じて正しく理解出来るように努めている。ホーム内で見過ごされる事がないようお互いに声を掛け合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度利用している入居者はいないが、正しく理解し今後必要となった場合には速やかに支援出来るようホーム内勉強会の項目に取り入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明の際、疑問点や不安な事がないか確認し十分に理解いただくよう努めている。また、入居後も疑問や不安を感じたらお話しいただくよう声を掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やご家族に連絡をとった時などお話しを伺うようにしており、また、玄関にも意見箱を設置している。ご意見等いただいた場合には全職員で話し合い解消に向け努める事としている。	ホーム内に意見箱を設置したり、家族面会時や家族への「グループホームふじのかわ お知らせ」版を利用して意見や要望を聞いて運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や月1回の業務会議、また、個人面談時など意見や提案を汲み取る機会としている。場合によっては全職員で話し合い反映させるよう努めている。	毎日の申し送りや業務会議、スタッフとの2か月に1回の個人面談などの機会を通じてほほえみの里へのゴミの搬入等の業務改善などに係る意見や提案をくみ取るようにしている。ごみの捨て方の工夫や、研修内容の決定等に反映されている。	BS法を用いた職員間での丁寧な話し合いや管理者との個人面談など、職員一人ひとりの気持ちを大切にできる姿勢は素晴らしい。震災後の負担を職員それぞれが抱えるなか、今後も職員の気持ちに配慮する中で生じる結束力は大事にしていてもらいたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談時に各自の目標を一緒に考え達成に向けてアドバイスをこなう事で、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の経験年数やレベルに応じ研修会等への参加を促している。また、今年度は法人内GH職員対象の介護技術講習会を開催し、働きながら知識・技術の向上が出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH協会沿岸北ブロックの研修会や法人内GHとの合同行事、勉強会等への参加を通じて同業者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問調査を行ない、ご本人の不安や要望の聞き取りを行なっている。面談調査を通じて顔見知りになり安心して入居生活を送れるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談調査、担当者会議等を通じてご家族の不安・要望を聞き取り、解消する事で、信頼関係作りが出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問調査を通じて、介護保険制度で利用できるサービスや施設の種類等を説明をお話しし、その旨を担当ケアマネに伝える等の対応を行なうよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「一緒に」作業する事を心掛け、作業後には感謝の気持ちを伝えるようにしている。また、地域の昔話や郷土料理の作り方を聞いたり、出来る部分の作業を行なって頂くことで信頼関係作りを努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや2ヶ月に1度発行の広報誌を送り生活の様子を伝えている。また、一緒に外出する機会を作っていたり、行事と一緒に参加していただく機会を設け、家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの関係が途切れないよう介護計画に取り入れ実施したり、ドライブに出掛けたりする事でこれまでの関係が途切れないよう支援している。	出来るだけ馴染みの関係が途切れないように、利用者の友達への面会、馴染みの美容室行くこと等をケアプランに取り入れ実現させている外、自宅訪問や馴染みの名所等にドライブに出かける等によりこれまでの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士が居室を訪問しあったり、一緒に歌を唄って楽しむ時間がある。また、お互いに声を掛け合って生活して出来るよう職員が声掛けを行い、支えあう関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人の状態やご家族の状況に応じて出来る限り相談に応じたり支援していく事を伝え、フォローに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用したり、直接ご本人から生活歴や思い、希望を聞き取る事で把握に努めている。また、生活の中の表情や行動からも察する事が出来るよう努めている。	センター方式や本人の希望や意向をピンポイントで捉えるひもときシートの活用のほか本人との日常生活を通じた会話や表情、行動等から思いや意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族やご本人から生活歴やなじみの聞き取りを行ない把握に努めている。また、日常の会話の中でも把握出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式アセスメントで得た情報をカンファレンス時に情報共有している。また、毎日の申し送りをノートに記録し、全職員がご本人の現状を共有出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントや日常のケアの中から気付いた課題やご本人、ご家族の要望・意向をふまえて職員間で話し合い、現状に合ったケアが提供出来るよう努めている。	アセスメントやひもときシートで捉えた本人等の要望、意向を踏まえてBS法を活用して職員間で話し合い現状に合ったケアを提供するよう努めている。なお、ケアプランは、大きな変化がなければ3か月毎に見直している。	チームで作る介護計画では利用者を職員が多方面からみて協議、検討しそれを共有することが大切であり、それが丁寧に実践されている。今後ともひもときシートやBS法活用したケアプラン作りの取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の反応や言動をケアの実践・結果として記録し、毎日の申し送り時に情報が共有出来るように取り組んでいる。また、毎月のカンファレンスでの評価にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望等に合わせ対応出来るように取り組んでいる。希望があればご家族の宿泊にも対応したり、なじみの関係を切らさないような支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の高校のボランティアサークルの訪問を受け入れており、震災があったが今年度内に再開の予定である。また、介護福祉士会等の活動にも参加、情報収集を行ない入居者の生活やケアの向上に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はホーム対応にて行なっているが、状態変化時にはご家族にも同行して頂いている。必要時には主治医へ文書にて情報提供を行ったり、受診結果はご家族にもお知らせしている。	利用者の状態に変化があったり、家族対応が必要な時以外は、受診は、ホームで行っている。受診の際にかかりつけ医に注文があればホームから状況報告の手紙を書いて渡すようにしている。家族には受診結果を電話で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、週1回の定期訪問以外にも、24時間対応可能である。入居者の状態やケアについてアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者との情報提供・情報交換に努め、場合によってはご家族と病院との仲介役として支援を行ない、安心して治療出来るよう関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期のあり方についてや、ホームで出来る事、出来ない事を説明しご理解を頂いている。ご本人やご家族の状況に応じて特養の申請や住み替えの検討も行ない関係者との協同での支援に努めている。	入居時に重度化した場合や、終末期の支援のあり方等について、ホームとして出来る内容を説明し理解を得ている。また、併せて場合によっては、系列のホームへの住み替え支援もありうることも説明し、了解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の避難訓練や介護福祉士会や法人で開催する救急講習会に参加し実践力を身につけるよう努めている。また、申し送り時や日常の会話の中でも話題に上げ、万が一に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練には消防署や地域の方にも参加して頂いている。今回の震災でもいち早く駆けつけ入居者の避難誘導や安全確認に参加して頂いた。応援協力隊として文書で協力を同意を頂いている。	避難訓練は、夜間想定も含め年2回行っている。震災を契機に従来のマニュアルに加え、日中、夜間、外出時等の詳細な地震マニュアルを作成した。避難訓練には、地域住民の方が応援協力隊として参加している他、日常的にも立ち寄ってくれている。	今回の震災では事業所に直接的な被害は生じていないが、地域が大きな被害をうけている。ライフライン断絶や物資不足、職員の自宅被害等著しい困難のなかで、職員は一丸となって利用者を守り抜いている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの生活歴や性格を把握、職員間で共有している。また、その時の気分を察し、状態・状況に応じた声掛けや対応を行なうよう努めている。	「その人らしい尊厳のある姿を大事にする」ことを基本として、使ってはいけない汚い言葉、なれあいの言葉などを使わないようにするとともに、その時々のお気分・表情・態度にも注意し対応するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のさまざまな場面で、入居者が自己決定出来る、または意思を表わしたり、意志を引き出すような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のその時の気分や状態を察して、出来るだけその日のペースに合わせて生活出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類選択の介助やなじみの美容室への同行介助など、その人らしいおしゃれを続ける事が出来るようご本人やご家族の要望に合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの嗜好や食べやすいように調理するよう配慮している。また、利用者の出来る力に合わせて食器やテーブル拭き、下ごしらえや盛り付け等、一緒に行ない食事している。	食事に当たっては、好き嫌い、その日の気分によって食べたい人、食べたくない人を盛り付け前に利用者に聞いて配慮している。利用者の出来る力に合わせて食事の準備や後片づけも一緒に行い食事が楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取チェック表や排泄チェック表を活用して入居者1人ひとりの食事・水分摂取量を把握するよう努めている。食事時も職員が同じテーブルと一緒に座りバランスよく摂取出来るよう声掛けを行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは習慣となっている。声掛け・見守り介助から一部介助まで、ご本人の出来る力に合わせた支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見れば、その日の排泄状況が分かる書式にしている。また、1人ひとりの排泄パターンの把握に努め、必要に応じてさりげない声掛け、介助を行ないトイレで排泄出来るよう支援している。	排泄チェック表により、排泄パターンを把握し、時間を見計らっての誘導やさりげない声掛け、介助を行いトイレで排泄出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護職員と認知症高齢者と便秘の関連について勉強会を行った事がある。起床時の冷水提供や腹部マッサージの声掛け、繊維質の多い食事提供など予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は1日おきの午後とし、ゆったりと会話をしながら入浴を楽しめるようにしている。また、一度拒否があっても職員を変えたりタイミングを見計らって再度声掛けをする等、個々にあった支援に努めている。	ゆったりと利用者のペースで入ってもらうため、また寝る前の準備という観点で午後からの入浴をすすめている。入浴に気乗りしない利用者にはタイミングを計りながら声掛けをするようにし、お概ね2日に1回は入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調に合わせて適度に休息をとれるよう支援している。また、夜間は就寝時間や温湿度、明りの強さにも配慮して安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容や注意事項の記入された用紙が入居者個別に見やすい場所に保管している。内服時に手渡しし、内服確認をしている。処方変更時には、申し送りを通じて全職員で情報共有し状態変化の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かした家事や畑仕事などの作業を一緒に行なったり、得意な事や趣味を披露できる機会を作ったりと役割と楽しみがある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物やドライブ、散歩やなじみの場所への訪問など、ご本人の希望にそって外出出来るよう対応している。また、必要時にはご家族にも協力していただき支援している。	利用者の意向に沿いながら利用者の自宅やその周辺、水産科学館等の馴染みの場所にドライブに出掛けたり、買い物、散歩などの外出支援を行っている。また、誕生会には、全員で外食に出かけることも実施している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望で自己管理している方もいる。買物の際には商品選びのアドバイスや、自分で支払いが出来るよう金額を伝えたりする介助を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族の希望に応じ、知人や友人などへも電話を取り次ぐ介助を行なっている。また、希望があれば離れて暮らすご家族へ手紙を出す支援も行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた飾りつけを行なったり、行事写真やみんなで作った掲示物を飾る等、居心地良く生活出来るよう工夫に努めている。また、民家改修型のホームのため、家庭的な雰囲気の中で過ごされている。	民家を利用した建物で居間、食堂、台所が一体となっており、調理のにおいもたよう生活感あふれる共用空間となっている。居間にはみんなで作った展示物や行事写真が飾られ、居間で過ごすことが多い利用者と職員がテレビをみながら会話を楽しむなど居心地良い共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂など、思い思いの場所で過ごしたり、仲の良い入居者の居室を訪ねたりとその時の気分に応じて過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、なじみの家具類や仏壇を持ち込んだり、ご本人の好きなポスターや職員手作りの誕生カードを貼ったりと自分の部屋として居心地良く過ごせるように配慮している。	民家を改修したホームのため、居室も広さが異なる等部屋ごとに個性がある。居室には、使い慣れた家具、テレビ、仏壇などを配置し、本人の好みのポスター、手作りの誕生カードを飾り居心地良く暮らせるよう工夫している。	元が民家のため各居室の雰囲気もバラエティに富んでおり、住環境としての個別性は高い。「私の部屋」という利用者にとっての満足度は今後も支えていってほしい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関の段差や階段等の不安を解消するため、スロープを設置している。また、階段にも手すりや踊り場を設け入居者が安全に移動出来るよう配慮している。		